

平成23年度会員セミナー

「競走馬の運動器疾患と手術について」 「鞭の使用に関するガイドラインについて」をテーマに



セミナー会場

平成23年度会員セミナーが11月26日(土)午後5時から、京都競馬場2階大会議室にて開催しました。

大八木信行本会会長の開会の挨拶の後、本多京都競馬場副場長のご挨拶に続き、「競走馬の運動器疾患と手術について」をテーマに、上野儀治馬事部獣医課長からスライドを使ってご説明頂きました。

続いて、「鞭の使用に関するガイドラインについて」のテーマでは、尾関道春審判部長より実際の鞭を展示したり、動画を使って海外の競馬における騎乗停止に該当する事例の説明がありました。



大八木信行会長



本多京都競馬場副場長



上野JRA馬事部獣医課長



尾関審判部長

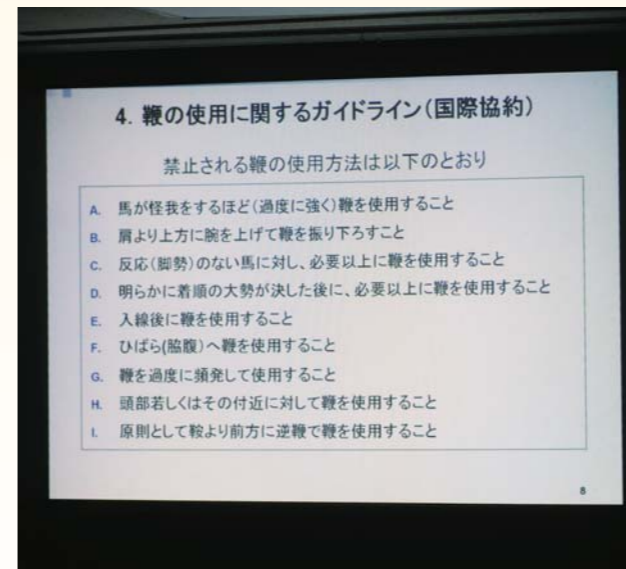
「鞭の使用に関するガイドラインについて」の発言趣旨

2010年に各国の競馬統括団体の代表が集まる会議において「鞭の使用に関するガイドライン」が合意された。JRAもこのガイドラインを批准した。

このガイドラインは、「競馬の安全」「馬の福祉」の観点から鞭の不適切な使用を禁止するもの。馬の反応を見ながら「競走能力の発揮」の目的で上手に鞭を使うことがポイントとなる。

運用方法について。JRAとしては、騎手は入線するまで全能力を発揮させることを前提に、本ガイドラインに反する鞭の使い方、とりわけ虐待と受け取られる恐れがある使い方をした際には、裁決委員がその騎手に対して注意し、必要に応じて制裁していくこととする。

今後、馬主の皆様が愛馬を応援する際には、本ガイドラインを遵守した騎乗であることをご理解いただきますようお願い申し上げます。



「競走馬の運動器疾患と手術について」の要旨

JRA競走馬診療所で診療した延べ2万頭余の馬を病類別にみると、半数以上が運動器疾患であり、そのうち35.5%が骨の疾患であり、最も多い。以下、筋肉・腱・靭帯・関節、蹄の順となっている。

競走馬の前肢は走行時に「舵」の役割を担い、そのため捻じれや大きな負荷がかかりやすい。「後肢」は「駆動輪」の役割を果たしており、地面を蹴って推進力を生み出す。以上のことから、前肢は骨折や屈腱炎など大きな負荷を支えることに起因すると考えられる疾病が多くみられ、推進時に使う筋肉の疾患は後肢で多く見られる。

過去15年間のJRA施設内での骨折の発生状況を見ると全体の骨折頭数は減少傾向。調教中の骨折は減少し、競走中より少なくなった。競走中の骨折は横ばい。

骨折は、競走馬の職業病ともいえ、競走生命を脅かす場合もある。しかし、多くの場合は適切な治療・給養・リハビリなどにより、競走復帰が可能。治療のひとつに手術がある。昨年1年間にJRA施設内において実施された手術のうち、8割以上が骨折に関するもの。全353例のうち関節鏡による剥離骨片の摘出術が236例、螺子による骨折の整復術が56例などとなっている。

JRAでは、1頭でも多くの馬が競走に復帰できるよう、技術導入や研鑽に努める所存である。



スワン会

スワン会では8月5日に貴船「ひろや」で納涼会を開催しました。貴船は京都駅から北へ車で40分ほどのところにある貴船山と鞍馬山に挟まれた細長い渓谷で、貴船川沿いに川床料理店が並び、蒸し暑い京都の夏を避けて納涼客が集まる避暑スポットです。当日は、前日からの雨で心配されましたが、お食事は川床で食べていただくことができ、真夏のひととき貴船川のせせらぎと渓谷のひんやりとした風に包まれながら納涼会を楽しんでいただけました。

10月30日には、恒例の京都競馬場での競馬場観戦をお楽しみいただきました。また12月15日には、ぎおん畑中で忘年会を開き、楽しいひとときをすごしていただきました。



8月5日 貴船ひろやにて



10月30日 京都競馬場観戦



12月15日 ぎおん畑にて